

観光地づくりの舵取り役「DMO」を学ぶセミナー

2月27日かわせみホール研修室で、「DMOを学ぶセミナー」（主催：うきは市観光協会、共催：日本観光振興協会）が開催され、「観光新時代の今、地域が取り組むこと～じゃらん宿泊旅行調査、全国事例より～」というテーマで、じゃらんリサーチセンターセンター長・沢登次彦さんに講演いただきました。

※「DMO」・・・Destination(旅行目的地) Management(経営・管理) / Marketing(顧客需要把握) Organization(組織)・・・地域と連携しながら観光地経営を行う組織。平成27年、観光庁により「日本版DMO」の登録制度が始まり、道の駅うきはを経営するうきはの里株式会社は平成28年に「日本版DMO候補法人」に登録されています。



▲ 豊富なデータと具体的な事例に基づき説明されました

～地域経済の牽引役として、観光面の5つの課題～ ※配付資料から抜粋

- 1: 地域で「新しい価値創造（進化）」が少ない（過去の資源を守るとともに新しい価値を「自ら」起こす必要）
- 2: 「消費につながる（稼ぐ）受け入れ整備」が遅れている（喜んで消費をしてくれる地域づくりが重要）
- 3: 地域と消費者の「マッチング（需要）」をおこしているか（地域の価値を消費者に伝える機能の強化）
- 4: 未来に向けての「人づくり、場づくり」ができていない（ありがたい未来に向けて合意形成はできているか）

5: 「**地域経営を行なう存在**」が欠けている。地域のありがたい未来のために、上記1～4について責任を持ち、やり抜く組織はどこなのか？

・・・「**観光地経営**」の視点に立った舵取り役の組織「DMO」の役割が重要

～オランダの事例に学ぶ 演劇フィールドワークと地域力創造～ 「野外円形劇場」でのワークショップ

3月3日道の駅うきは（研修室）で、オランダの舞台監督・劇作家シュールド・ワーヘナーさんによる、地域資源の活用法について考えるワークショップが開催されました。40人ほどが参加して、「住民自らが芸術活動の担い手となることで地域力を創造する」という活動主旨を踏まえて、市内にある歴史・文化財を地域のためにどのような活用ができるのか考える機会となりました。

今回のワークショップでは実際に「野外円形劇場」で、参加者が即興の寸劇に取り組むなどして、自分たちの足元にある様々な素材を「地域の物語」として作り上げていく手法を学びました。



▲ オランダの事例を話すシュールド氏



▲ 「野外円形劇場」でのワークショップ

道の駅うきは敷地内の「野外円形劇場」

・・・大正12年（1923）に結成された農民劇団「嫩葉会（わかばかい）」は山春村の医師安元知之（やすもと・ともゆき）氏の下に集まった青年達が、修養と娯楽を求めて結成した日本初ともいわれる農民劇団。大正14年に地域住民とともに現在の「道の駅うきは」敷地内に、野外円形劇場を建設した。平成27年に発掘され保存整備後、昨年12月に披露された。